源　流

第２６６号　　教育長　　儘田　文雄

次期学習指導要領に向けて

出典：「令和７年７月２８日　中央教育審議会　教育課程企画特別部会資料２」

カリキュラム・マネジメントの在り方

＜現状と課題＞

１　前回改訂以降の変化

○　各種特例校制度により大胆にカリキュラムを工夫する取組も一部に広がり、次期改訂に向けては**「調整授業時数制度」（仮称）など柔軟な教育課程編成を促進する仕組みも検討中**

○　デジタル学習基盤の活用による校務・授業運営・教職員間の連絡調整の効率化で**余剰時間マネジメントの余地が拡大**

２　顕在化している課題

○　「なぜカリマネが必要なのか」が十分に咀嚼（そしゃく）されない中、**「カリマネ＝教科等横断の視点での教育課程編成」と理解され、単元配列表の作成が目的化**している場合あり。

○　教育課程編成の中核である**「指導上の課題解消・目標実現のため、どの教科を、どのような時数で、どのような日課の下実現するか」という時間マネジメントが着目されにくく**、今後の柔軟な教育課程の実現の観点から課題

＜改善の方向性と論点（案）＞

①　**「何のために（目的）」「どのように（手段）」行われることが期待されるのか**を具体的に提示

②　学校が直面する指導上の課題の解消という具体的成果につなげつつ、**学校教育目標の実現に迫るという実際的な視点を重視**

③　調整授業時数制度等の**柔軟な教育課程の仕組みの活用により、何が可能となるか**を具体的に提示

④　**過度な負担を避ける視点を重視**（表形式化・デジタル化、生成ＡＩ等のデジタルツール活用）

⑤　全ての教師が当事者となり、**カリマネが教師にとって意義を感じられる日常の取組となる可能性**

知らないことは恥ずかしいことではない

由（ゆう）、女（なんじ）に之（これ）を知（し）るを誨（おし）えんか。
之（これ）を知（し）るを之（これ）を知（し）ると為（な）し、知（し）らざるを知らずと為（な）す。是（これ）知（し）るなり。

（訳）由（ゆう）よ、お前に知るということを教えよう。分かっていることはわかっている、分からないことは分からないと、はっきりとさせること。それが本当に知るということだ。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（ＰＨＰ研究所）